

●本資料記載の内容については、予告なく変更する場合があります。
●色調については、印刷の特性上、現物と異なる場合があります。
●本資料からの無断転載を禁じます。



三菱ケミカル株式会社

中日本事業所 RCレポート

2024 Responsible Care Report

三菱ケミカル株式会社

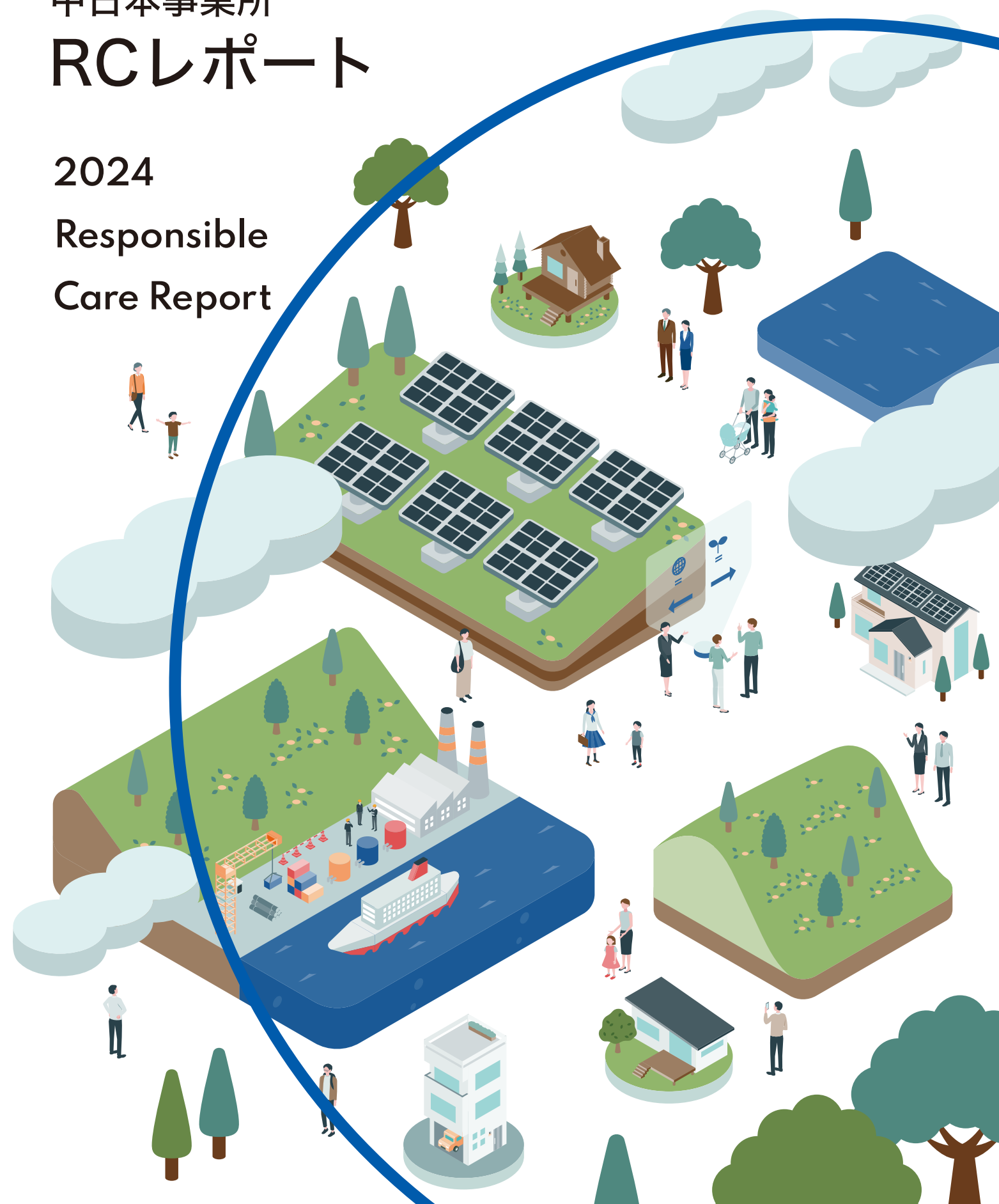
中日本事業所

〒526-8660 滋賀県長浜市三ツ矢町5-8

お問い合わせ：TEL.0749-65-5111 FAX.0749-63-1141

三菱ケミカルグループホームページ

<https://www.mcgc.com/>



2024年11月発行 (YRK)
Printed in Japan

もくじ・編集方針

もくじ

もくじ・編集方針	1
ごあいさつ	2
中日本事業所(滋賀エリア)のご紹介	3
中日本事業所(滋賀エリア)が提供する製品	4
RC(レスポンシブル・ケア)活動	5
環境汚染予防・環境負荷低減	9
環境管理物質の削減	12
環境保全活動	13
循環資源・産業廃棄物管理	15
省エネ活動	17
労働安全衛生活動	19
緊急時対応	22
ものづくり活動	23
健康管理	25
ダイバーシティ・多様な働き方推進	26
社会貢献活動	27
社外コミュニケーション	29
事業所・グループ会社紹介	30

編集方針

- 対象範囲
滋賀エリアRCサイト(ISO14001活動範囲)
(三菱ケミカル中日本事業所、MCCグループ会社6社、協力会社)
- 対象期間
2023年4月～2024年3月(一部2024年以降の情報も掲載しています)
- 目的と内容
このレポートは、三菱ケミカル中日本事業所、グループ会社及び協力会社の環境・安全に関する活動(RC活動)を、以下のみなさんにご理解いただけるようにまとめたものです。
(1) 近隣住民のみなさん (2) 行政のみなさん (3) 近隣事業所のみなさん
(4) 従業員とその家族のみなさん (5) 中日本事業所に来場されるお客様
- 作成担当
環境安全部・設備技術部・総務管理Gr・企画管理部
- 公表媒体
冊子、三菱ケミカルグループホームページ

ごあいさつ

中日本事業所は、三菱ケミカルグループの国内主要生産拠点として、皆様の生活に欠かせない製品を生産しています。
私たちは、地域や社会から理解され信頼され、地域の皆様と共生できる事業所をめざし、環境保全・環境負荷低減活動と安全活動を統合したレスポンシブル・ケア(RC)*活動を推進しております。

2023年度も「労災ゼロ、保安事故ゼロ、環境事故ゼロ」を目標に掲げ、活動に取り組んでまいりました。環境保全においては、温室効果ガス排出量の削減、省資源・省エネルギーの推進、大気や水・土壌などの汚染防止、廃棄物の発生抑制・再使用・再資源化の推進、自然環境保全活動、環境にやさしい製品の開発・製造など、事業活動のすべての過程において環境負荷の低減に努めました。

また、サーキュラーエコノミー*の取り組みとして、お客様も含めた製品リサイクルの構築を検討しています。

労災保安事故対策では、リスクアセスメントの実施やRCパトロールでの危険箇所等の指摘・改善の実施、震災や火災を想定した緊急対応訓練にWEB技術を取り入れ、地区間の情報伝達等の強化や、防災マニュアルの点検を行い、防災対策の強化、迅速な情報公開への対応等の改善を図り、地域の皆様に安心いただける事業所づくりを推進しております。

さらに、地域の皆様と共同で行う清掃活動への参加や各種イベントの開催、次世代育成への協力として、近隣中学校の職場体験学習の受け入れや小学校への出前授業の実施など、今後も社会貢献活動に積極的に取り組んでまいります。

本レポートは、レスポンシブル・ケア活動の状況について皆様にご報告させていただき、事業所の活動をご理解いただくことを目的としております。

ぜひご一読いただき、率直なご意見・ご指導を賜ることができれば幸いです。

これからも皆様から広く信頼され、親しまれる安全で安心な事業所となるよう努めてまいりますので、今後とも、ご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



2024年10月
三菱ケミカル株式会社
中日本事業所長

兵頭 雅博

※ レスポンシブル・ケア(RC)とは

製品の開発・製造・使用・廃棄の全サイクルにおいて、健康・安全・環境に配慮することを経営方針のもとで公約し、自主的に環境安全対策の実行、改善をはかっていく管理活動です。

5ページ参照

※サーキュラーエコノミーとは

従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」のリニアな経済(線形経済)に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済を「サーキュラーエコノミー(循環型経済)」と呼ばれています。

中日本事業所(滋賀エリア)のご紹介

中日本事業所(滋賀エリア)では、食品・医薬品などに使用される包装用フィルムから、最先端の情報電子材料用フィルムまで幅広く製造しています。皆様の身近で使用されている製品を提供することで、暮らしをKAITEKIにしていきます。



中日本事業所(滋賀エリア)が提供する製品

パッケージング・ラベル・フィルム



ポリエステル延伸ブロー容器
「PETボトル」

醤油、みりん、つゆ、たれ、ソースなどの各種調味料向けに使用される、透明度が高く、軽くて丈夫なペットボトルです。近年では、新製品のハイバリアボトルを開発しました。



ラベル用シュリンクフィルム
「DXL™フィルム」・「ヒシペット™」
「HybrexDL™」・「PLABIO™」

ペットボトルなどの食品やトイレタリー商品のラベルに使用される熱収縮性のフィルムです。収縮特性や透明性、光沢性に優れ、商品の個性をアピールし、差別化を図ることに適しています。



医療用防湿シート
「PTP用ビニホイル™」
「PTP用スーパーホイル™」

GMP(医薬品及び医療外部品の製造管理及び品質管理の基準)生産管理思想のもと生産された、高品質な医療品錠剤包装用シートです。



食品包装用ラップフィルム
「ダイアラップ™」

スーパーマーケットなどで販売されている生鮮食品のトレー包装や、レストラン、ホテル、飲食店向けのラップフィルムです。環境配慮型のポリオレフィン系多層ラップは、多くのお客様にご採用いただいています。



共押出多層フィルム
「ダイアミロン™」

深絞り包装などに使用される、ナイロンなどの樹脂を共押出した多層フィルムで、高い透明性や光沢性、強度、ガスバリア性などを持っています。ハムやベーコンの包装をはじめ、医療器具包装、産業資材包装と幅広い分野で採用されています。



IT・エレクトロニクス・ディスプレイ



二軸延伸ポリエステルフィルム
「ダイアホイル™」

LCDバックライトの光学シートのベース、LCD部材の保護フィルム・離型フィルムの基材、タッチパネル、フレキシブル基板の部材、カード、ラベル、セラミックコンデンサ用離型フィルム(工程紙)、感熱転写用フィルム、包装用フィルムなどに広く使用されています。



光学用透明粘着シート
「クリアフィット™」

タッチパネル型液晶ディスプレイの保護パネルとディスプレイの空隙部に充填する、境界面の屈折率差による光のロスを抑えて視認性を向上する透明粘着シートです。



「スペリオ™UT」

携帯電話のスピーカー振動板などに使用される高耐熱エンブラフィルムです。

RC (レスポンシブル・ケア) 活動

レスポンシブル・ケアとは

化学品を取り扱う企業が、製品等の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動のことで、この活動を『レスポンシブル・ケア (Responsible Care) 』と呼んでいます。

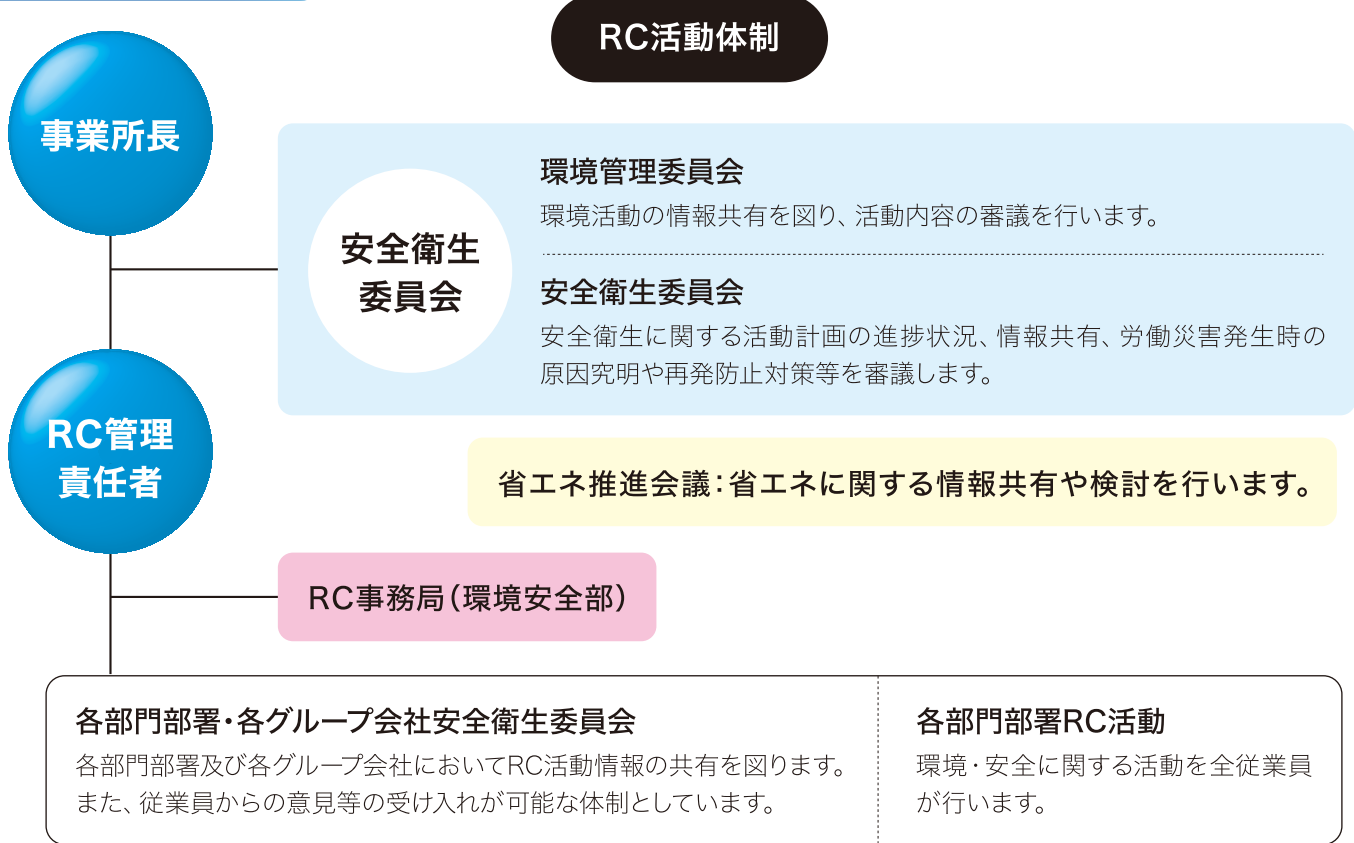
湖北地区三菱ケミカルグループRC方針

湖北地区三菱ケミカルグループは、プラスチック製品の開発及び製造等の事業活動において、常に環境負荷の低減に積極的に取り組み、情報公開、ならびに地域・社会への貢献を通じ、地域・社会から愛されるKAITEKI事業所の実現と、従業員とその他関係者の安全と健康を確保し、災害ゼロの実現に向け行動する。

1. 事業活動ならびに生産する製品が環境に与える影響を的確にとらえ、環境負荷の低減に努める。
2. 環境及び労働安全衛生に関する法令、その他要求事項を順守することはもとより、環境汚染の予防、負傷及び疾病の予防に努める。
3. 危険源を除去し、労働安全衛生リスク低減に努める。
4. 技術的、経済的に実現しうる具体的な目的及び目標を設定し、環境管理・安全衛生管理の組織、制度及び責任体制を明確にし、RCマネジメントシステム及び、環境と労働安全衛生パフォーマンスの継続的な改善に努める。
5. 関係する総ての人に、環境負荷の削減及び労働安全衛生の確保に必要な教育、訓練を実施し、各自の責任の自覚と行動できる人材の育成に努める。
6. 地域・社会からの理解と信頼向上のため、地域・社会との積極的なコミュニケーションに努める。

中日本事業所とグループ会社、協力会社で一体のRC方針としています。

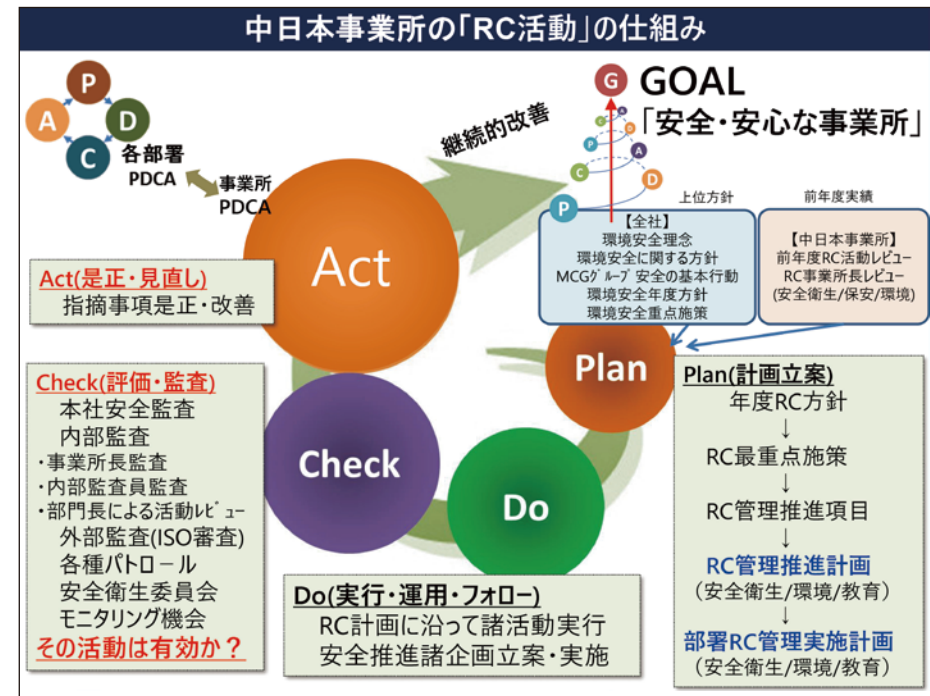
RC活動体制



RCマネジメントシステムと活動体制

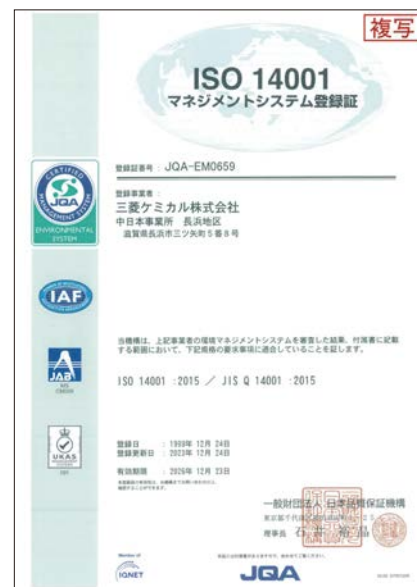
湖北地区三菱ケミカルグループでは、1999年よりISO14001の認証を取得、継続しています。

また、労働安全衛生マネジメントシステムは、2020年度にOHSAS18001からISO45001へ移行しましたが、現在は、独自の労働安全衛生マネジメントシステムに移行し、ISO14001と合わせて、RCマネジメントシステムとして取り組んでいます。



環境マネジメントシステム

外部認証機関（第三者機関）の認証を取得しています。



ISO14001登録証

活動組織：2023年12月現在

三菱ケミカル(株)中日本事業所 長浜地区、浅井地区、山東地区
三菱ケミカルインフラテック(株)長浜事業所
三菱ケミカル物流(株)中日本支社（滋賀事業所）
ダイヤリックス(株)滋賀地区
ジェイフィルム(株)長浜工場
(株)菱湖テクニカ
(株)北菱モールド

労働安全衛生マネジメントシステム

社内の統合RCマニュアルに沿って運用しています。

RC内部監査、部門長による定期レビュー等の場で活動の適合性・有効性を確認・改善しています。

 RC (レスポンシブル・ケア) 活動



2023年度 RC活動の実績

区分	項 目	ありたい姿	活動項目	目 標	活動実績	評 価
環 境	環境リスクの低減	法条例の要点が事業所の全員に周知され、適切な運用が維持できる、コンプライアンス意識が高い事業所	・環境法令、条例改正情報の入手と周知 ・法令順守状況の定期的な確認	・環境法令、条例等の違反ゼロ	・法規制等一覧表を最新版管理し、法令順守評価(2回／年)を実施した ・フロン排出抑制法で機器の廃棄処理手続きで違反が発生、対策を実施した	△
		環境事故の発生・自然災害による漏洩リスクがない事業所	・環境事故リスクを再抽出し、リスク低減対策を立案し、改善する ・環境パトロールを実施し課題を改善する ・緊急事態訓練で手順を見直し、緊急対応備品類を整備する	・環境事故、自然災害によるリスクの低減	・各部署で上げたリスクに基づき低減対策を実施した ・環境パトロールを3地区で計12回実施し、指摘と処置を実施した ・環境トラブル処理訓練を実施し、緊急対応備品のリスト化を実施した	○
	環境負荷の低減	環境負荷を発生させない事業所	・生産性の向上や省エネルギー機器の導入、遮熱、その他の改善によりエネルギー使用量を改善する ・廃プラスチック類の分別管理を推進し、再生利用プラスチックを増やす	・エネルギー原単位で対前年度1%改善 ・廃プラスチックの再資源化の実施	・エネルギー原単位で対前年3%改善した ・廃プラスチックの一部を再資源化へ変更した	○
	環境への貢献活動	地域環境に貢献する事業所	・淡海エコフォスター活動 ・びわ湖一斉清掃	・地域で計画している自然環境保全の活動に積極的に参加する	・淡海エコフォスター活動を毎月(年間12回)実施し、延べ269人が参加した ・びわ湖一斉清掃が雨天中止となったため、10月13日に事業所独自で湖岸清掃を実施した	○
安 全	安全を全てに優先する人の育成	事業所全員が、危険を危険と気づける感受性を身に付ける	・KYT(危険予知訓練)教育を実施し、KYスキル評価により効果を確認する	・危険を危険と気づける感受性を身に付ける	・事業所内全員対象でKYT教育を推進し、KYスキル評価により危険感受性の向上を確認した	○
	安全文化の向上	相互啓発型の事業所となる	・各部署で、「安全、人・組織の活性化に関する」討議を実施する	・議論の結果を共有する事で、お互いが声を掛け合い仲間を守る組織になる	・好事例を事業所内に紹介し部署間の交流につながった	○
	安全管理の徹底	事故及び災害のない事業所	・安全に関する規則類の周知を徹底の実施	・規則類に基づいた運用が出来るようになる	・規則類の内容の説明を実施し、運用状況の確認を実施した ・確認結果をもとに、規則類の、見直しを実施した	○

RC内部監査の実施

RCマネジメントシステムの有効性と適合性を評価する内部監査を毎年実施しています。2023年度のRC内部監査では、改善指摘事項が2件発見されましたが、速やかに改善対応を実施しました。また、改善の機会は28件、グッドポイント(優良な活動事例)は56件という監査結果でした。

引き続き、改善の機会への対応についても確認しながら、優良な活動を各部署に水平展開することで、地域の皆さんから「安全」「安心」な事業所と評価いただけるよう取り組みを推進していきます。

分 類	改善指摘事項	改善の機会	グッドポイント
三菱ケミカル	2	23	50
グループ会社	0	5	6
合 計	2	28	56

環境マネジメントシステム外部審査

2023年11月に、外部機関による環境マネジメントシステムの定期審査が行われ、環境マネジメントシステムは認証継続されました。

分 類	改善指摘事項	改善の機会	グッドポイント
三菱ケミカル	0	12	4
グループ会社	0	6	0
合 計	0	18	4



外部機関による審査風景



環境汚染予防・環境負荷低減



滋賀エリアでは、環境汚染予防、環境負荷低減を図るため、主に次のような設備を備えています。

長浜地区

排水処理施設

事業所の排水は、排水処理場で浮上・沈降による分離除去、また、監視機器による常時監視を行っています。万が一のトラブルに備え、排水堰を設置しています。



VOC処理施設

生産時に発生する揮発性有機化合物（VOC^{*}）の大気排出量を削減するため処理施設を設置しています。環境負荷の低減に貢献しています。



※VOC(Volatile Organic Compounds)とは…揮発性有機化合物の総称。大気中に放出されると、公害等の健康被害を引き起こす恐れがあり、排出量の抑制に向けた自主的取り組みが求められています。

廃棄物集積場

地区内の廃棄物は、廃棄物集積場に集積しています。事業所のルールに従って分別された廃棄物は委託業者に運搬し、適正処理を図っています。



側溝監視機器

側溝に油膜検知器、濁度計等の監視機器を設置。排水異常の早期発見に努めています。



流出防止堰

緊急時に場外への流出を防止するため、堰を設置しています。



浅井地区

排水処理施設

地区内の排水は、排水処理場で浮上・沈殿による浮遊物や泥の除去をしています。また、機器による水質監視のほか、定期的に採水分析を行っています。



廃棄物集積場

地区内の廃棄物は、廃棄物集積場に集積しています。事業所のルールに従って分別された廃棄物は委託業者に運搬し、適正処理を図っています。



太陽光発電システム

2014年6月から使用開始し、日最大250kWを発電できます。昼間の電力使用ピーク低減とCO₂排出抑制に貢献しています。



水路堰

地区排水路の複数の箇所に堰を設置し、万が一の排水トラブル発生時には、堰を閉め、場外への流出防止を図ります。



山東地区

流出防止堰

異常排水を処置する堰を設け、堰止めた污水を適正に処置しています。



側溝監視機器

排水の異常を監視する観測機器を設け、濁度、pH、油膜等の異常を24時間連続測定しています。



地下水観測井戸

地下水の異常を監視する観測井戸を設け、採水した地下水を定期分析しています。

調整池

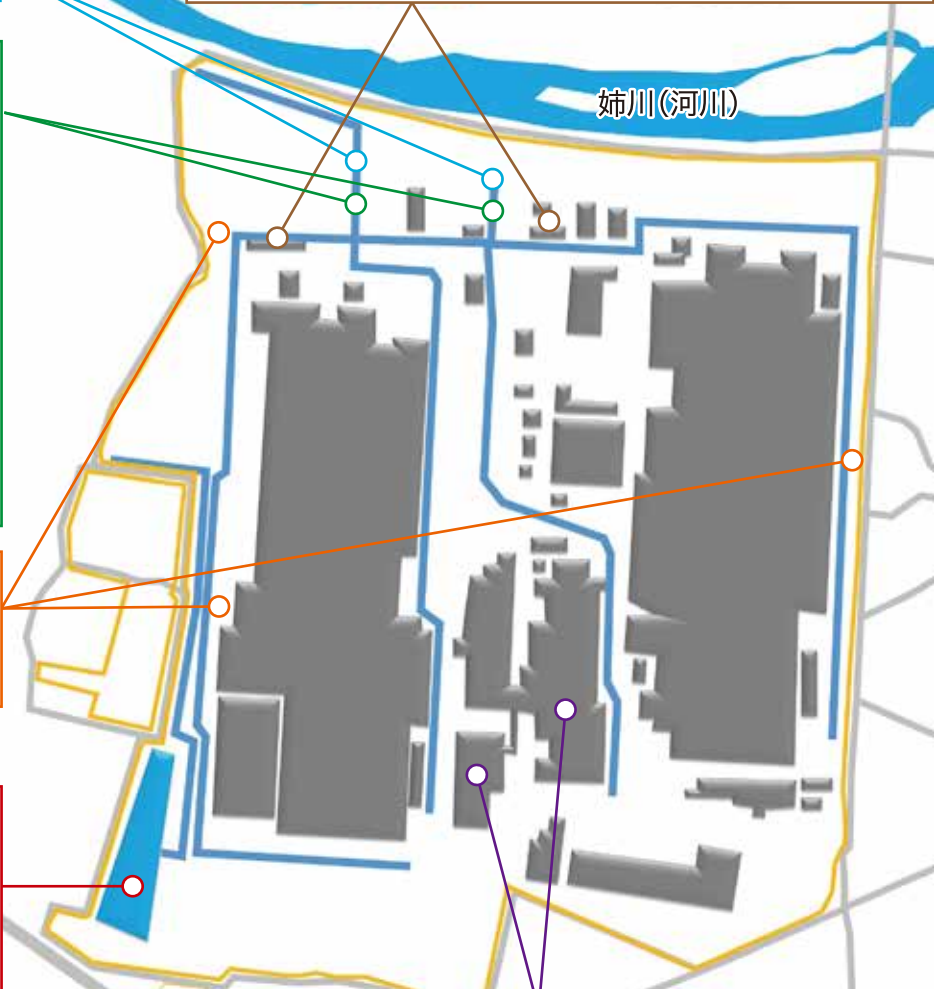
豪雨や近隣河川氾濫の自然災害に備える貯水池を設け、氾濫水の一時的な貯水や調整放流等の洪水緩和を図っています。



廃棄物置場

廃棄物等の置場を設け、一時保管や認定業者による収集運搬、処理等、法に基づく適正対応を行っています。





VOC処理施設

大気中に排出するVOC*量を削減する排ガス燃焼処理施設を設け、大気環境負荷の低減を図っています。

※VOC(volatile Organic compounds)とは…

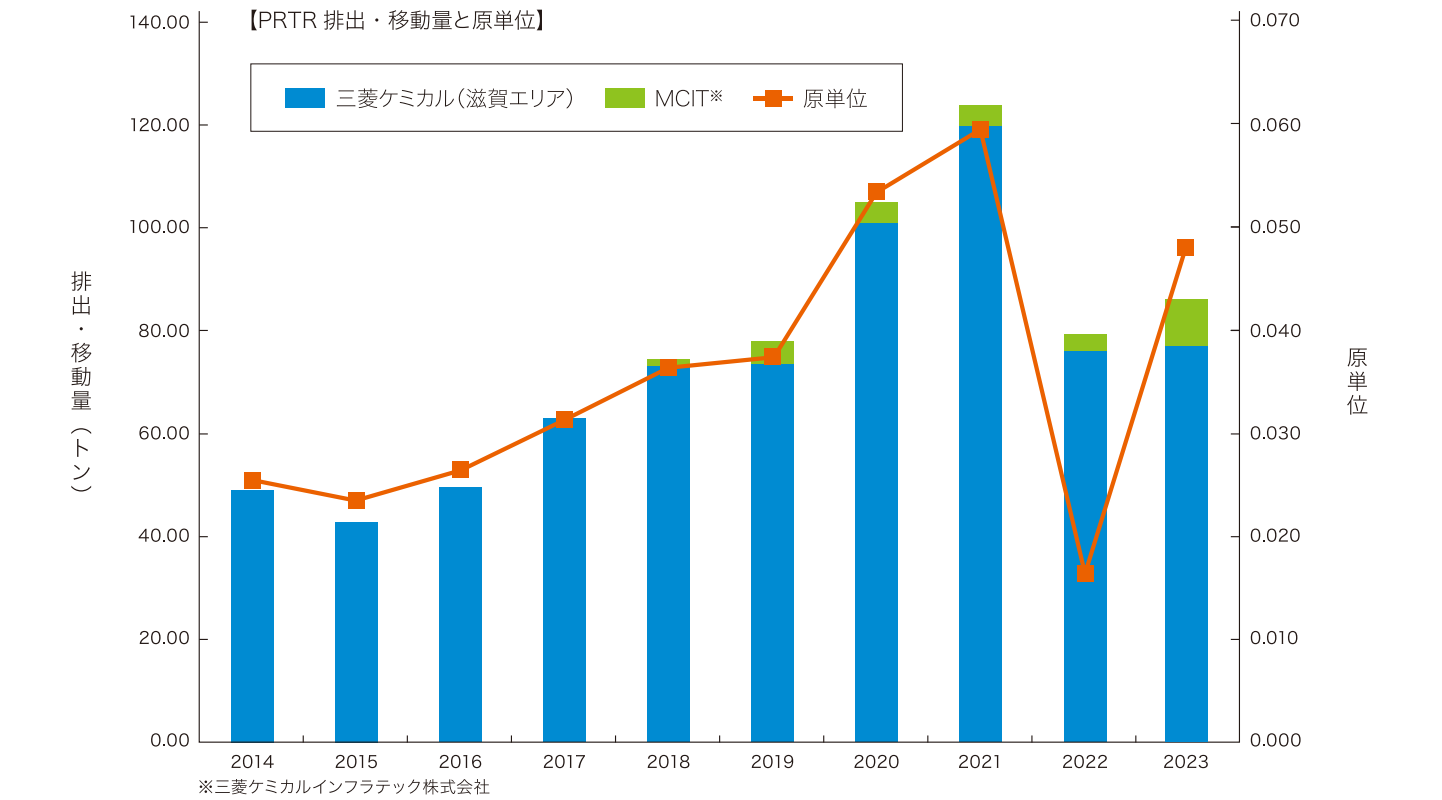
揮発性有機化合物の総称。大気中に放出されると、公害等の健康被害を引き起こす恐れがあり、排出量の抑制に向けた自主的取り組みが求められています。

PRTR物質の管理

PRTR法の対象754物質について、1年間に1kg以上取り扱う物質を集計し、そのうち1t以上(特定第1種指定化学物質の場合は0.5t以上)取り扱い物質は事業所毎に管轄行政に届出ています。

過去に使っていた六価クロムや鉛などの有害物質の使用を停止し、現在取り扱い中の有害物質も無害物質への置き換えや使用量の削減に努めています。また、盗難防止、自然環境汚染の防止、健康被害の抑止、適正な廃棄処理等の対応を行っています。

今後も適正な管理を継続し、環境負荷と健康被害の低減に努めていきます。



【PRTR 物質排出・移動量】

物質名	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
亜鉛の水溶性化合物	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アンチモン及びその化合物	1.87	1.92	1.87	1.92	1.66	1.30	1.48	4.09	3.42	4.59
キシレン	5.54	4.66	2.08	0.77	0.78	2.90	1.96	0.12	0.07	0.08
2・6-ジ-ターシャリ-ブチル-4-クレゾール	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.03	0.02	0.36
1,2,4-トリメチルベンゼン	0.92	0.05	1.08	1.07	1.66	1.00	0.98	1.05	0.93	0.00
1,3,5-トリメチルベンゼン	0.26	1.14	0.30	0.31	0.30	0.28	0.28	0.30	0.26	0.00
トルエン	39.30	33.37	43.21	58.83	67.58	67.88	95.57	118.40	74.50	65.74
ナフタレン	0.10	0.08	0.11	0.11	0.12	0.13	0.13	0.13	0.12	0.23
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.23	0.19	0.54	0.18	0.50	0.51	0.34	0.13	0.12	0.00
無水フタル酸	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
メチレンビス(4,1-フェニレン) = ジイソシアネート	0.39	0.54	0.00	0.00	0.02	0.01	0.01	0.40	0.36	0.80
モリブデン及びその化合物	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00	0.40	0.36	0.01
りん酸トリトリル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05	0.04	0.03	0.03	0.01
有機スズ化合物	0.01	0.02	0.02	0.02	0.28	0.26	0.22	0.02	0.02	0.03
鉛及びその化合物	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

事業所では、周辺の緑豊かな環境と調和した事業所を目指し、環境保全活動に取り組んでいます。
ここでは、滋賀エリア2023年度の主な環境測定データと環境保全活動の結果をご報告いたします。

1. 環境測定データ

● 水質

測定項目	単位	規制値	自主基準値	長浜地区		浅井地区		山東地区	
				測定値（最大値）		測定値（最大値）		測定値（最大値）	
				2022	2023	2022	2023	2022	2023
pH（水素イオン濃度）	-	6.0～8.5	6.0～8.4	7.8～8.0	7.8～8.3	7.6～7.8	7.5～7.9	7.9～8.3	7.9～8.3
BOD（生物化学酸素要求量）	mg/L	20	10	0.7	1.1	0.7	1	0.7	1
COD（化学的酸素要求量）	mg/L	20	10	2.3	5.3	2.3	3	2	2.9
SS（浮遊物質）	mg/L	70	35	1	3	不検出	不検出	1	2
n-ヘキサン抽出物	mg/L	5	2	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
全窒素	mg/L	8	4	0.94	0.94	0.61	0.66	1.6	1.8
全リン	mg/L	0.8	0.4	0.06	0.06	不検出	不検出	0.06	0.06
大腸菌群数	個/mL	3,000	1,500	133	280	20	15	22	5
トリクロロエチレン	mg/L	0.1	0.01	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.04	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	1	0.1	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,4-ジオキサン	mg/L	0.5	0.05	不検出	不検出	不検出	不検出	0.02	0.016

● 騒音

測定位置・時間	単位	長浜地区				浅井地区				山東地区			
		規制値	自主基準値	測定値（最大値）		規制値	自主基準値	測定値（最大値）		規制値	自主基準値	測定値（最大値）	
				2022	2023			2022	2023			2022	2023
敷地境界（東）・夜間	dB	55	50	49	47	60	55	48	46	60	50	49	55
敷地境界（北）・夜間	dB	55	55	54	53	60	55	55	54	60	50	53	48
敷地境界（西）・夜間	dB	55	55	49	46	60	55	50	49	60	50	48	49
敷地境界（南）・夜間	dB	55	50	49	47	60	55	49	48	60	50	46	50

● 振動

測定位置・時間	単位	長浜地区				浅井地区				山東地区			
		規制値	自主基準値	測定値（最大値）		規制値	自主基準値	測定値（最大値）		規制値	自主基準値	測定値（最大値）	
				2022	2023			2022	2023			2022	2023
敷地境界・昼間	dB	65	50	38	41	70	65	53	59	65	50	45	47
敷地境界・夜間	dB	60	45	37	39	65	50	57	61	65	45	43	48



振動測定



騒音測定

● 大気（長浜地区）

対象設備	測定物質	単位	規制値	自主基準値	測定値（最大値）	
					2022	2023
ガスボイラー	窒素酸化物	ppm	150	100	37	43
	ばいじん	mg/Nm³	100	80	5	（不検出）
加熱炉（ガス）	窒素酸化物	ppm	230	180	52	43
	ばいじん	mg/Nm³	200	160	9	12
集塵機	粉じん	mg/Nm³	-	10	2.9	73
	鉛	mg/Nm³	3	0.3	不検出	0.007

● 大気（山東地区）

対象設備	測定物質	単位	規制値	自主基準値	測定値（最大値）	
					2022	2023
ガスボイラー	窒素酸化物	ppm	150	120	87	87
	ばいじん	mg/Nm³	100	80	5	3
灯油ボイラー	窒素酸化物	ppm	180	180	61	57
	ばいじん	mg/Nm³	300	240	不検出	不検出
VOC 処理施設	揮発性有機化合物	ppm	600	480	161	144

2. 環境保全活動

環境モニタリング

大気、水質、騒音、振動、臭気の状態を定期的にモニタリングし、環境汚染の予防、環境負荷の低減、環境保全等の維持管理に努めています。2023年度の測定結果はいずれも、良好であることを確認しています。



地下水採水



分析業務

淡海エコフオスター活動

滋賀県が主催する淡海エコフオスター活動、びわ湖・余呉湖一斉清掃に参加しています。淡海エコフオスター活動は毎月第三水曜日に長浜地区周辺の生活道路の清掃活動を行っています。2023年度は延べ269人がこの活動に参加しました。

今後も近隣道路の清掃活動や美しいびわ湖の維持活動に貢献していきます。

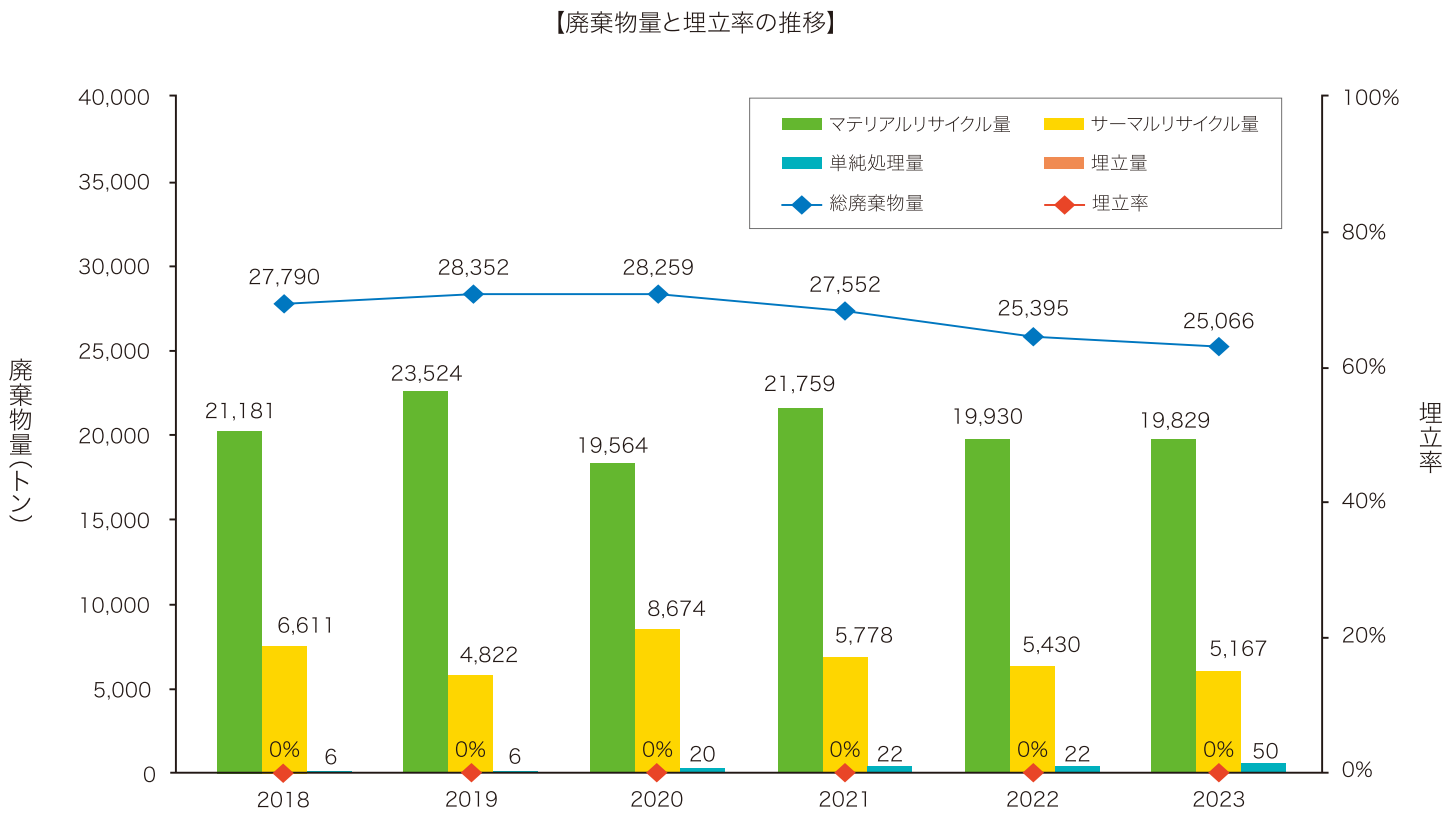


淡海エコフオスター活動

省資源活動の実績

2023年度の生産活動による総廃棄物量は、中日本事業所滋賀3地区で25,066トンでした。2022年度と比較して約330トン減少する結果となりました。埋立廃棄物量は「ゼロ」を継続し、再資源化率は99.7%となっています。

これからも、歩留改善活動の取り組みや生産技術改善などの研究・開発を継続的に行い、廃棄物の削減に取り組むとともに、廃棄物の分別も徹底し再資源化を継続することで、省資源化を推進していきます。



※2020年度の集計より分社化した三菱ケミカルインフラテック(長浜)を含む。

サーマルリサイクルとは

廃棄物の焼却の際に発生する熱エネルギーを回収し再利用すること。

マテリアルリサイクルとは

廃棄物を原料として再生利用すること。



産業廃棄物の適正処理の確認・監査(現地確認)

産業廃棄物処理委託業者の現地確認を、年一回実施しています。実際の処理施設で廃棄物の受入から処分までの各工程を視察し、廃棄物が確実に処理されている状況を確認するとともに、法律に基づく書類の整備・保管状況や工場の操業状態など、独自のチェックシートを使用し確認しています。

また、有価物の処理委託業者についても産業廃棄物処理と同様、年一回の現地監査を実施し、適切な処理が行われているかなど、確認をしています。

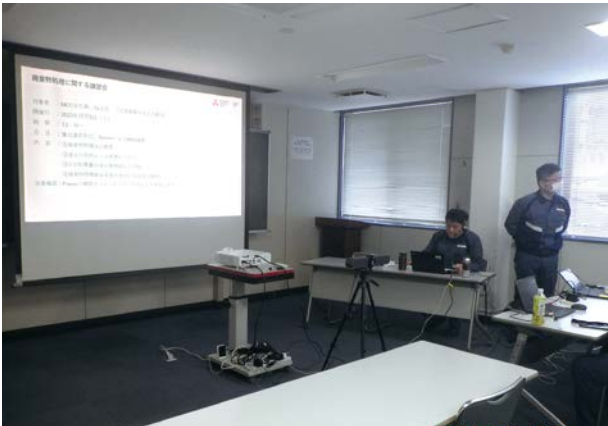


現地確認

廃棄物処理講習会

毎年1回実施している廃棄物処理講習会を2023年12月に実施しました。特に事業所で発生している分別不具合事例を重点を置き、再発防止を含めた教育を行いました。

廃棄物の分別管理の強化を図り、省資源化を推進していきます。



廃棄物処理講習会

環境関係の管理者資格取得の推進

滋賀エリアでは、各部署のスタッフが環境法令をさらに理解し、自部署の管理業務を適切に推進するため、環境に関係する管理者資格取得を推進しています。

環境法令で必要となる「公害防止管理者」「特別管理産業廃棄物管理責任者」を推奨資格と定め、毎年取得者を募集し、資格取得者を増やすことで、事業所の環境管理の向上に役立てています。

【取得者推移】

資格区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
公害防止管理者(大気関係)	2名	2名	1名	2名	0名
公害防止管理者(水質関係)	3名	1名	3名	5名	2名
特別管理産業廃棄物管理責任者	19名	11名	38名	38名	36名



省エネ活動



滋賀エリアでは、全部門で部門部署ごとに省エネまたは省マテリアルに関する年間テーマを設定し、達成に向けた活動を展開しています。

省エネ活動としては、昼休みの消灯や、照明のLEDへの置き換え、出張削減による移動に伴うエネルギー削減などがテーマにあがっています。省マテリアルの活動としては、原料の効率利用や、ペーパーレスなどがテーマにあがっています。

省エネ・省マテリアルとあわせて、業務の効率化や収益改善を目指しています。

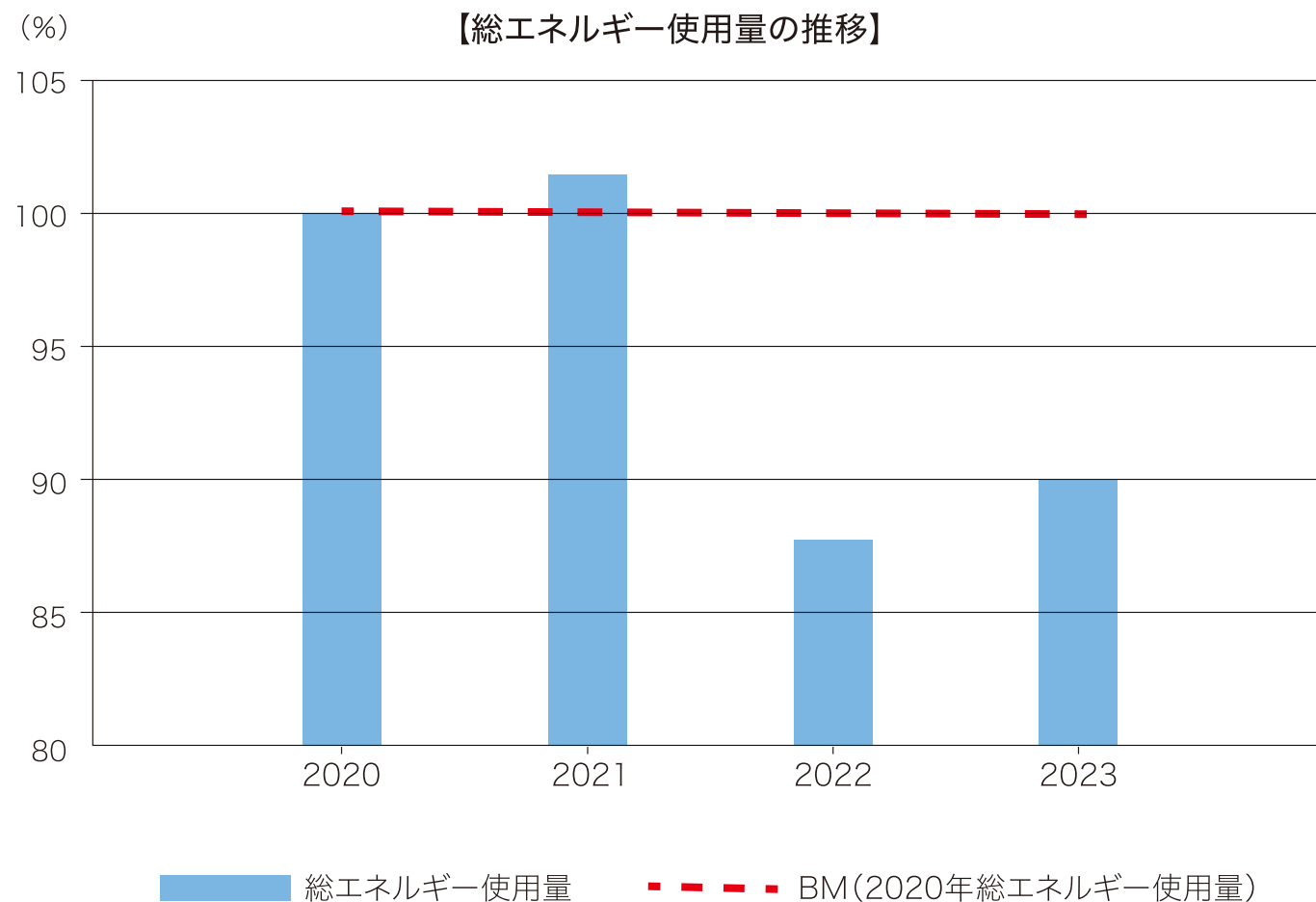
事業所のエネルギーを管轄する部署では、設備更新の際は高効率型への置き換えを基本としています。エネルギー可視化システム活用し、自部門の使用エネルギー量を誰でも簡単に確認できる環境を構築しており、僅かなエネルギーロスも早期に発見する取り組みを行っております。

総エネルギー使用量の推移

使用エネルギーの年度推移を示します。

2022年度はコロナの影響もあり大幅に生産量が減少し、エネルギー使用量も大幅に減少しました。2023年度は前年度比で微増したものの、2021年度水準に比較して、低い水準で推移しています。

※2020年度エネルギー使用量を100%として表示



高効率変圧器

滋賀エリアでは順次、老朽化した変圧器を高効率(トッランナー)変圧器へ計画的に更新しています。

変圧器設置から数十年経過していることで、導入当初に比べ現場の負荷状況も大きく変動しているため、変圧器更新の際には現状の負荷状況を事前に調査し、最適な容量選定、再編・統合を合わせて実施しています。

昨年度は、滋賀エリアで合計5台を高効率変圧器へ更新し、年間約25,000kWh、6.2kl相当のロスを削減しました。



更新前

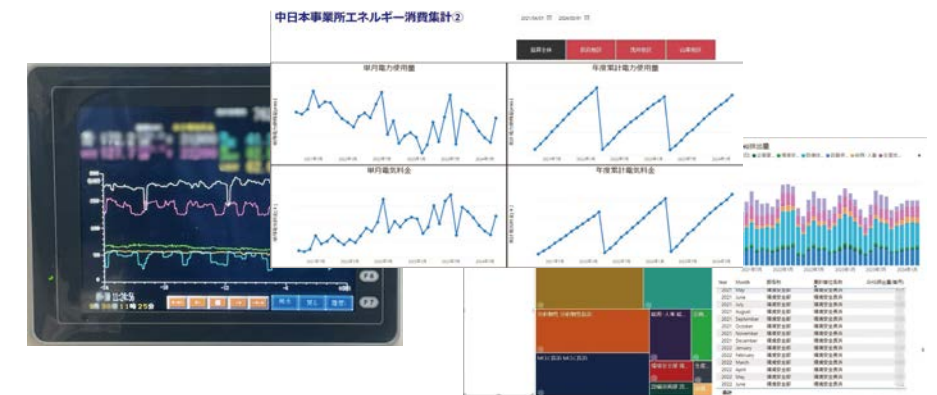


更新後

電力使用量の可視化

滋賀エリアでは、電力使用量削減のためにオンデマンドシステムにより常時確認できるようにしています。

毎月の実績をサイネージ掲示や、汎用ツールで配信。自部署の状況だけでなく他部署の実績も確認でき、省エネ意識を高めています。



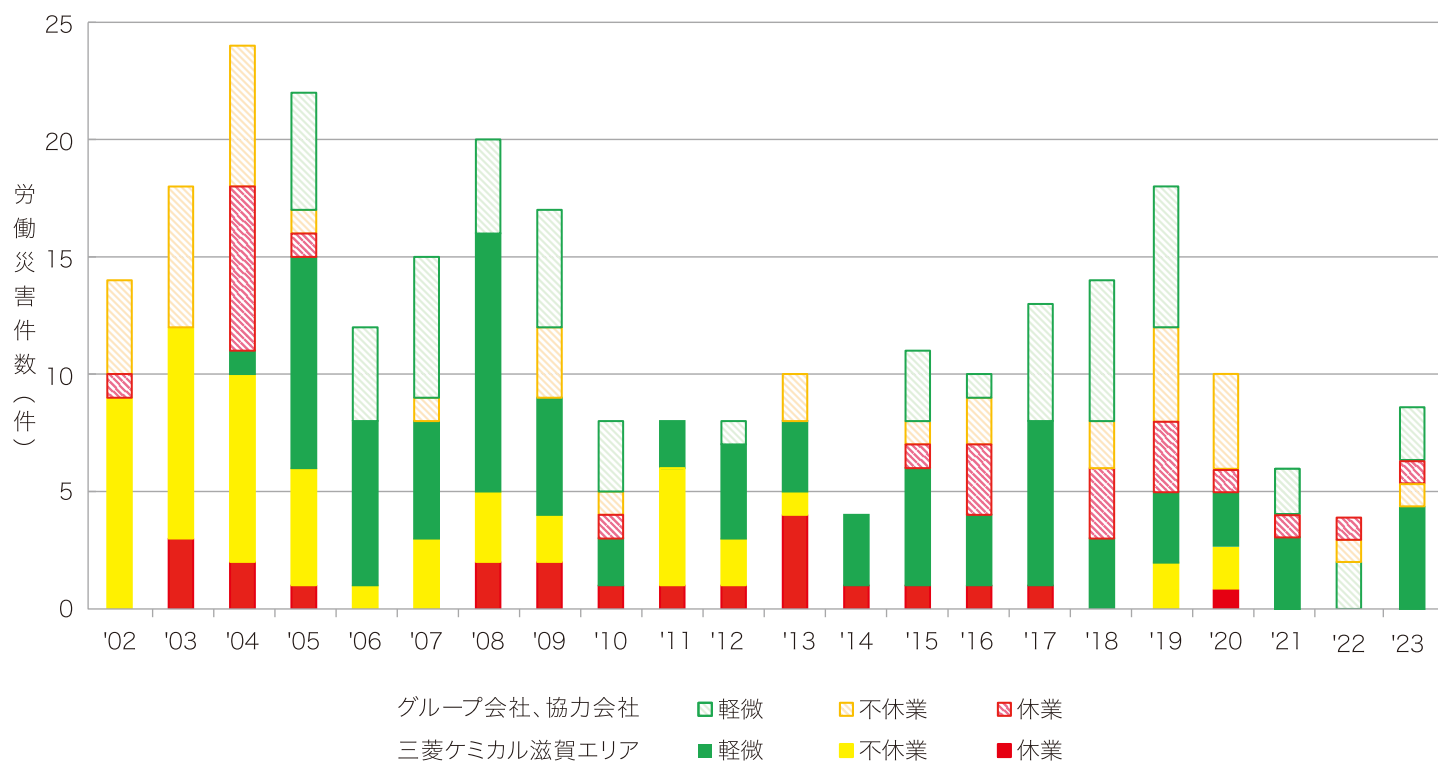
汎用ツール (例)



労働安全衛生活動

安全成績

2023年度の中日本事業所（グループ会社・協力会社含む）の労働災害は、休業災害1件、不休業災害1件、軽微な災害が7件の合計9件でした。2024年度は、安全管理を徹底するとともに、各部署で安全討議を実施、継続し、安全文化を向上させることで、災害ゼロを目指します。



滋賀事業所 安全大会(全社安全大会)

滋賀事業所では2023年7月5日に「滋賀事業所 安全大会」を実施し、MCGグループ安全大会（中継）から始まり、環境安全部部長の安全講話、環境安全部による危険予知トレーニングのポイント説明、最後に事業所長からの安全メッセージがあり、安全意識を高めることができました。前年までは、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、リモート中継のみとしましたが、今回から対面とリモートで実施し、グループ会社を含め、管理・監督者をはじめとする全従業員が、今後の無災害への意識を高めることができました。

※事業所名称は2023年10月に「中日本事業所」に変更しました。



滋賀事業所 安全大会

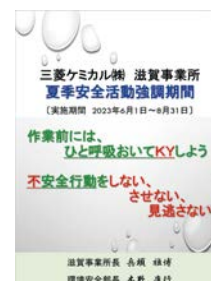


環境安全部長の安全講話

夏季安全活動強調期間活動

暑くなる期間は、危険に対する意識が希薄となり、「うっかり」、「ぼんやり」といったヒューマンエラーの出やすい時期であり、熱中症のリスクも高いことから、夏季の災害を防止するため、2023年度は、6月1日～8月31日（3ヶ月間）を夏季安全活動強調期間とし、下記の啓発活動を実施しました。

- 1.事業所長による「実施宣言」の発信
- 2.啓発ポスター・横断幕の掲示
- 3.熱中症予防の周知と実践
- 4.7月5日に「滋賀事業所 安全大会」を開催し、全社安全大会に合わせて滋賀独自内容実施
- 5.事業所長実施宣言に関する対話会の実施
- 6.安全講演会の実施（赤塚武平先生）



啓発ポスター



安全大会(危険予知トレーニングのポイント)



事業所長の安全メッセージ

安全教育(雇入れ時/フォークリフト、クレーン/リーチフォークリフト)

労働安全衛生法に基づき、雇入れ時の安全教育の実施や5年毎に「フォークリフト運転業務」、「玉掛け業務」、「クレーン業務」に従事する従業員を対象に、各業務の安全衛生教育を受講しています。

資格取得支援

事業所では、生産現場で使用する「フォークリフトの運転」や「クレーン操作」「玉掛け作業」は、一定の資格が必要な業務であり、他にも、危険物・有害物を取り扱う業務や、ボイラー・プレス機等の設備を取り扱う業務においても、個別の資格が必要となります。それら必要な資格の取得と技能向上を図るため、環境安全部が担当し、外部団体との調整から講習受講・免許取得までを積極的に支援しています。

安全講演会の実施

夏季安全活動協調期間活動の締めくくりイベントとして、8月24日に赤塚武平先生をお招きし「安全に偶然あり、事故に偶然なし」をテーマに講演会を開催いたしました。赤塚武平先生の長年の経験からくる体験談や、安全確保の原点は会社・職場のルールを理解し、愚直に守るという熱い想いを公演いただきました。講演会中の参加者の眼差しから事故は絶対に起こさないという気持ちを感じることができました。

後日、講演会の内容を録画配信し、全従業員が、今後の無災害への意識を高めることができました。



安全講演会



労働安全衛生活動

8 働きがいも
経済成長も



安全推進委員活動

滋賀エリアでは安全活動の一環として、安全推進委員活動を行っています。

この活動は、安全文化構築のため、安全を優先する人づくりを行う取り組みで、主な活動は安全先取りパトロールと立哨活動及び教育活動です。

安全先取りパトロールでは一連の作業で人の行動や物の状態を観察し、その中で当該部署が気づきにくい危険な行動や危険な状態を抽出し、ハード面の対策はもとより、ソフト・ヒューマン面においても安全意識の向上に繋がられるような対策をみんなで一緒に検討し、改善へつなげられるよう取り組んでいます。

立哨活動では、出退勤のあいさつに加え、正しい服装の着用、構内通行ルールや構内速度を守るよう声掛けを実施してコミュニケーションを図り、従業員一人ひとりが、ルールを守る風土作りを行っています。

また教育活動では、「安全な設備の基準」や「心理的安全性について」等幅広い知識を身につけることで、危険を危険と感じ取る感性を養っています。



安全先取りパトロール



立哨活動



教育活動

KYスキル評価

2023年11月に滋賀エリアの従業員を対象とし、3回目の「KYスキル評価」を実施いたしました。

KYスキル評価とは、担当する業務の中での危険感受性を向上させて、安全に作業を行えるように「安全の先取り活動」として危険(K)を予知(Y)できる人になるための訓練です。内容は、図の例題に対し「危険要因」(不安全状態と不安全行動)を多く、正しく抽出することを目的として、安全に対する意識を向上させる取り組みです。この活動は今後も継続し、ゼロ災害事業所を目指してまいります。



2023年度 KYスキル評価題材

無災害記録事業場受賞

2023年5月18日に、(公社)滋賀労働基準協会彦根・長浜支部より滋賀エリアに対し、第3種無災害記録樹立事業所表彰(無災害記録750日)が授与されました。今後も一人ひとりが不安全な行動・状態を見逃さず災害ゼロを継続することを目指してまいります。



無災害記録事業場パネル



第3種無災害記録証



緊急時対応

11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



事業所の浸水リスク対策

滋賀エリアでは、浸水リスク対策として事業所内の水害時の浸水深の測定を行い、事業所のどの地点が浸水リスクが高く、対策が必要なのかを数値化しました。

この結果を踏まえて、浸水深看板を設置し、水害時に原料等が流出しないよう対策を推進しています。



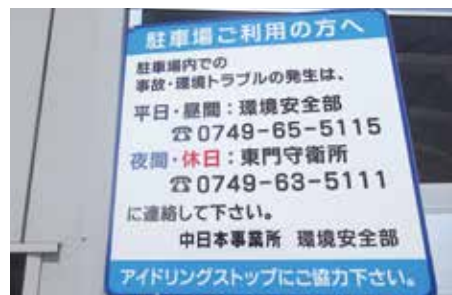
浸水深看板設置



浸水深看板

環境事故対応

滋賀エリアでは、駐車場で環境事故発生に素早く対応するため、各駐車場に液体吸着シート、液体吸着材、油吸着材の環境事故対応資材を設置しています。



看板



設置場所



環境事故対応資材 BOX

緊急時対応訓練

地震、火災、緊急時の発生に備え、緊急事態対応訓練を定期的実施しています。2023年度も総合震災訓練及び火災訓練を行い、緊急事態発生時の対応手順を確認しました。万が一の緊急事態にも、迅速・的確な対応ができるように訓練の継続と対応設備等の整備を進めています。



対策本部



現場での訓練



訓練総評



ものづくり活動



ものづくり強化

輝くものづくり滋賀25

2021年4月からスタートした事業所中期経営計画「輝くものづくり滋賀25」は、2023年4月からチャレンジのフェーズに切り替え、さらに2023年10月から各部門における活動に移管しました。輝き続ける滋賀事業所（KAITEKI事業所）の実現に向けて、ものづくり革新活動を進めております。



中期経営計画ポスター

レオの会

中日本事業所が輝き続けるために、「明るく、元気に、チャレンジ」をモットーに、事業所長と現場で働く皆さんが日頃思っている事や感じている事を語り合う「レオの会」を開催しています。2023年度下期は、中日本事業所として滋賀と大垣が一つになり、大垣地区でも盛んに開催されました。

参加者からは「次回は部署を越えたメンバーで、事業所長と熱く議論したい!」と声が集まっています。



「レオの会」
マスコットキャラクター

運転員見学会

「レオの会」で、現場で働く皆さんからあがってきた意見に「他の製造現場を見てみたい」という要望があり、それを受けて、「運転員見学会」が企画開催されました。新型コロナウイルス感染症2類⇒5類により、現場見学が開催され始めました。見学会開催の中には、各製造現場からの要望による開催や事務局主導の統括主任現場見学会も開催。今後益々現場同士の繋がりが強くなるでしょう。



小集団活動

2023年10月より大垣工場と滋賀事業所は、中日本事業所としてスタートしました。

小集団活動は、両地区合わせて220サークルを越え、MCC事業所では最大規模を誇ります。これまで会社が歩んできた環境や文化が異なるなか、いかにお互いを理解して成長に繋げるか、大きな課題があります。そんな中、大垣、滋賀のサークル活動は、2022年度、2023年度の全社大会で大変優秀な成績を収めています。

2023年度に出場した、品質保証部の「本家VIP」サークルは、「脱・カッターへの挑戦!〜からくり改善による現場改革〜」で、見事「銀賞」を受賞しました。「ここに出場するためには、中日本事業所を勝ちぬかないといけない!」という高いハードルがありますが、「またあの景色が見たい!」と意気込むサークルは少なくありません。2024の活動も楽しみです。



ものづくり人材育成

中日本事業所では、生産現場でのものづくりを支える自律した人材を育成するために、スキル・マインド・マネージメントの3つを基軸として、様々な研修カリキュラムを整備しています。新入社員からベテラン社員まで幅広い層を対象にして、受講を取り進めています。

安全体験研修

安全・基本行動教育の展開・正しい作業を繰り返し学ぶことで習慣化しています。



モーター巻き込まれ体験



ロール挟まれ体験



工具の使い方体験



金型増し締め作業体験



感電体験



AED 体験



フランジ解放作業被液体験



重量物取扱体験

VR体験研修

労働災害対策として、安全知識や過去の災害事例を学ぶことは重要と考え、2021年に導入したVR体験装置による疑似体験を通して、その災害に至るまでの状況や過程およびその災害を体験することで安全意識の向上に努めています。事業所長の声掛けで体験者が急増しています。



技術研修

第一線の社内講師による技術研修を開催しています。入社5年目までの若手スタッフを対象とした基礎・専門講座を開催しています。2024年度より新たに中堅スタッフ向けの講座を新設し、固有技術の伝承とものづくりの基本を学ぶ場としています。ここ数年で動画視聴に移行する講座が増えていますが、対面開催を継続している講座もあります。

写真は実機を会場へ設置し、実物を確認しながら説明いただく講座で受講者からも好評です。



健康管理



三菱ケミカルグループの健康経営

三菱ケミカルグループでは、2016年度より取り組んできた健康経営を、2023年度より「三菱ケミカルグループの健康経営」として「健康的な生活習慣」「こころの健康」「働きやすい環境」の3本柱で整理し推進しています。健康経営の推進により、私たち一人ひとりのWell-being向上を健康の側面から支援し、KAITEKIの実現につなげていきます。

三菱ケミカルグループ体操・安全安心体力テスト

転倒労災の防止を目的として「三菱ケミカルグループ体操」を毎日実施して「転倒しにくい体づくり」を進め、年1回の「安全安心体力テスト」で「転倒リスク」を数値化し、本人への自覚を促し、転倒リスク削減や体力の維持向上を図っています。

高年齢従業員が増えている中、エイジフレンドリー対応として、高年齢従業員の体力状況の把握や身体機能の維持向上に取り組むことが求められており、安全対策とともにエイジフレンドリー対応としても位置付けて取り組んでいます。

治療と仕事の両立支援

病気を持つ・持たないに関わらず、みんながイキイキと活力高く働ける会社・職場づくりを目指しています。「治療と仕事の両立があたりまえ」のこととして会社・職場に根づいていくよう、従業員に諸制度を周知し、希望する従業員に支援を行っています。加えて気軽に相談できる体制づくりを進めていくことで、治療と仕事の両立をしている仲間を受け入れ、共に働くことを通して多様性やさまざまな価値観に気づく、より豊かな企業文化の醸成を目指しています。

出前教室

熱中症予防、健康管理と安全とのつながり等をテーマに、また救急処置法の講義・実技指導など、職場からの依頼に応じて出前教室を開催し、従業員の健康維持・増進に向けて取り組んでいます。

受動喫煙防止対策

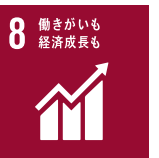
2020年4月から実施している事業所内及び勤務時間内禁煙は、喫煙者本人・非喫煙者の理解・協力も得て定着しました。

新型コロナウイルス感染予防対策

新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日から「5類感染症」に変更されましたが、今後にも備え、“新たな健康習慣”感染対策の「5つの基本」の心がけを継続し、安心・安全な職場環境づくりを図り、生活にあたって必要不可欠な素材を安定して生産・供給していきます。



ダイバーシティ・多様な働き方推進



人権研修

各職場を中心にハラスメント等の各種人権研修を実施しており、2023年度は、延べ3200名が受講しました。

また、人権加盟団体を通じて、人権全般にわたる情報収集や、社外の方との意見交換、人権担当者の育成など、積極的な活動を行っています。

障がい者雇用の推進

障がい者雇用の推進に向けて、様々な取り組みを行っています。障がいをお持ちの方一人ひとりの特性に合わせて書類の電子化、データ整理など事務作業の支援、清掃作業など、様々な作業に取り組んでいます。また、エコキャップ運動、事業所周辺の美化活動など、社会貢献活動にも積極的に参加しています。



書類電子化作業



エコキャップ運動

多様な働き方の推進

育児・介護・治療との両立支援やテレワーク※の活用により多様な働き方を推進しています。

両立支援ハンドブックの作成、短時間・短日数勤務制度の整備等により働き方の選択肢を広げ、仕事とプライベートを両立しイキイキと働き続けられる環境づくり・多様な人材の活躍を支援しています。

※テレワークとは … 「情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない働き方(日本テレワーク協会)」のことで、「tele＝遠くで」+「work＝働く」を合わせた造語です。



両立支援ハンドブック

近隣学校の工場見学受け入れ

事業所では近隣の学校の工場見学を積極的に受け入れています。

小学生については世界に1つしかないオリジナルデザインのマイペットボトル作りを体験してもらい、化学に興味を持つきっかけづくりを行いました。

また、高校生については将来の就職観を持っていただき、仕事のやりがいや当社が社会でどのようなところに貢献しているのかを説明しました。



工場見学受け入れ

地元中学校の職場体験学習受け入れ

職場で働く人々の姿を間近に見て職業観や勤労観を養うことを目的に、近隣中学校の職場体験学習を受け入れています。短い期間にはなりますが、ものづくり現場の見学をはじめ、環境保全活動や研究所での分析業務体験など様々な業務を体験してもらいました。



職場体験学習

米川の治水事業に協力

米川の治水事業として、滋賀県、長浜市と協定を結び、当社のグラウンドを遊水地として利用することにしました。

米川は市街へ向かうほど河川幅が狭くなり、豪雨時に市街流域が浸水する被害が出ていました。滋賀県が治水対策を進めるにあたり、当社のグラウンドの活用を検討され、それに連携して協力していくこととしました。

今後、具体的な計画が策定されていきます。



※遊水地のイメージ図です。計画により変更もあります。

社会貢献活動

滋賀エリアの横断サークルである「あゆっこ倶楽部(詳細は下部参照)」と「三菱ケミカル労働組合」が回収活動推進の中心となり、「エコキャップ回収※1」「古切手収集※2」「プルトップ回収※3」「ベルマーク収集※4」等の社会貢献活動を展開しています。

あゆっこ倶楽部では、回収率アップのためのPR活動などを行い、事業所内の活動の輪を広げ、社会貢献活動を盛り上げています。

- ※1 飲み終えた飲料PETボトルのキャップを集め、指定のリサイクル業者に売却し、その収益でポリオ(小児マヒ)ワクチンを購入し、途上国の子供たちに贈る活動です。
- ※2 日本キリスト教海外医療協会へ送付し、郵趣家や切手商へ売却。国際保健医療協力活動(ワーカー派遣、奨学金、協働プロジェクト)のために役立てられます。
- ※3 飲み終えた飲料缶のプルトップを集め、リサイクルメーカーへ売却した収益金で車椅子を購入し、必要とされている施設に寄付する活動です。
- ※4 長浜市社会福祉協議会へ持ち込みし、地域のベルマーク参加学校へ寄付されます。





社外コミュニケーション



近隣自治会との意見交換

毎年、近隣自治会役員の方々との意見交換会を実施しています。本RCレポートを用いて事業所の環境・安全活動等の取り組みの説明や事業所の紹介映像、ショールームでの製品説明を行いました。各自治会の活動状況をお聞きしながら、皆様と様々な意見交換を実施することができ、近隣各自治会との良好な関係を維持していくために今後も継続していきたいと思ひます。



近隣自治会意見交換会

長浜ものづくりTECH2023への出展

長浜商工会議所主催の本イベントは湖北地域のものづくり企業が多数参加し、当社からも技術力や企画力のアピール、製品、サービス等のPRを目的に出展し、来場された方々や出展企業様と幅広い交流を行うことができました。

今後も地元企業の一社として、ものづくりの魅力発信や就労意識の向上に協力していきます。



事業所・グループ会社紹介

三菱ケミカル株式会社 中日本事業所

長浜地区

(滋賀県長浜市三ツ矢町5-8)

高度な技術を用いて、プラスチックの特性を生かした付加価値の高い製品の製造や、技術開発、新商品開発に取り組んでいます。



浅井地区

(滋賀県長浜市大路町1700)

独自の技術開発により食品包装用フィルムや、バリア性に優れたPETボトル、プラスチックプレートなどを製造しています。



山東地区

(滋賀県米原市井之口347)

二軸延伸ポリエステルフィルムは、機械的特性・耐熱性・透明性などバランスのとれた特性を備え、ディスプレイをはじめ、太陽電池、医療器材、包装材料など幅広い用途で使用されています。



大垣地区

(岐阜県大垣市神田町2-35)

液晶用偏光フィルムや水溶性フィルムなど、特徴のある製品作りで社会に貢献しています。



従業員数：約2,100名(2023年11月時点)
敷地面積：757,000㎡(4地区合計)

年	主なできごと
1943	長浜で三菱化成工業(株)が合成ゴムの加工を開始
1946	天然ゴムの加工に転換のため、社名を長浜ゴム工業(株)に変更
1958	合成樹脂製品の製造を専業とし、社名を長浜樹脂(株)に変更
1962	社名を三菱樹脂(株)に変更
1974	長浜市大路町に浅井工場を開設
1978	ダイアホイル(株)を設立して米原市井之口に山東工場を開設
1992	独ヘキスト社と提携し、ダイアホイル(株)がダイアホイルヘキスト(株)へ変更
1998	三菱化学(株)がヘキスト社の保有株式を譲受、三菱化学ポリエステルフィルム(株)が発足
2008	三菱樹脂(株)、三菱化学ポリエステルフィルム(株)などが事業統合し、新生三菱樹脂(株)が発足
2017	三菱樹脂(株)、三菱化学(株)、三菱レイヨン(株)が統合し、三菱ケミカル(株)が発足
2018	長浜事業所、浅井事業所、山東事業所が統合し、滋賀事業所に改称
2023	10月、大垣工場を統合し、中日本事業所に改称

グループ会社

三菱ケミカルインフラテック株式会社 長浜事業所

住 所：滋賀県長浜市三ツ矢町5-8

事業内容：工業用プレート、樹脂フィルム積層鋼板、住宅資材用途の合成樹脂製品の製造

株式会社菱湖テクニカ

住 所：滋賀県長浜市三ツ矢町5-8

事業内容：製造に伴う作業請負業務

MCCアドバンスドモールドディングス株式会社 浅井工場

住 所：滋賀県長浜市大路町1700

事業内容：自動車、電子、情報関連製品、医療用成形部品等の開発・製造・販売

ジェイフィルム株式会社 長浜工場

住 所：滋賀県長浜市月ヶ瀬町1

事業内容：合成樹脂原料による包装資材の加工製造・販売

三菱ケミカル物流株式会社 中日本支社

住 所：(滋賀)滋賀県長浜市八幡中山町540

(大垣)岐阜県大垣市木戸町632-1

事業内容：物流全般等

エムイーシーテクノ株式会社

住 所：岐阜県大垣市西崎町3-13

事業内容：各種電気設備・計装設備の設計から施工、機器の点検整備

ダイヤリックス株式会社 中日本管理センター 滋賀

住 所：滋賀県長浜市一の宮町1-6

事業内容：保険、ビジネスサポート

株式会社北菱モールド

住 所：滋賀県長浜市加納町205

事業内容：プラスチック成形用金型、口金の製造・販売

MCCトレーディング株式会社 滋賀営業所

住 所：滋賀県長浜市一の宮町1-6

事業内容：建築工事業及び付帯・関連する一切の業務

ジャパンコーティングレジン株式会社

大垣工場・開発研究所(大垣グループ)

住 所：岐阜県大垣市神田町2-35

事業内容：合成樹脂エマルジョンとそのパウダーエマルジョンの開発・製造・販売